

新宿歴史博物館特別展

漱石生誕140年記念

「夏目漱石と新宿の文学者たち」

新宿区に生まれ没した文豪・夏目漱石。愛用の文具・書簡・原稿・書画等を通して、「漱石山房」と呼ばれた早稲田南町の家での暮らしや、弟子たちとの交流を振り返ります(写真左)。

また、新宿は、漱石のほか尾崎紅葉、小泉八雲、坪内逍遙をはじめ、200名を超える文学者が生まれ生活した、文学的な土壌の豊かなまちです。こうした新宿ゆかりの文学者たちを併せて紹介します。

★関連イベント

◎記念講演会

①11月10日(土)午後2時～4時:「漱石山房の日々」(石崎等/元立教大学教授)
②11月17日(土)午後2時～4時:「漱石と東京」(井上明久/作家・早稲田大学講師)
③11月22日(木)午後6時～8時:株式会社雄松堂書店「夏目漱石落款集」出版記念「英文学者としての夏目漱石」

◎歴史・文化探訪

「漱石ゆかりの早稲田界隈を歩く」

漱石生誕の地であり、終焉の地でもある早稲田付近の主な文化財を訪ねます。史跡ガイドボランティアが解説します。
【日時】11月24日(土)午後1時～3時(雨天実施)
【見学地】穴八幡宮・漱石生誕の地・誓閑寺・多聞院・浄輪寺・漱石終焉の地(予定)
【定員】100名
【費用】400円
【申込み】往復はがきに催し名・住所・氏名・年齢・電話番号のほか、同伴者(2名まで)の氏名・年齢を記入し、11月13日(必着)までに新宿歴史博物館(左記)へ。応募者多数の場合は抽選。新宿歴史博物館ホームページからも申し込み可能です。

◎れきはくシネマサロン

漱石と新宿ゆかりの作家たちの足跡と作品をたどる、ドキュメンタリーを上映します。
【日時】12月9日(日)午前10時～11時30分
【上映作品】「夏目漱石」(1988年・25分)、「新宿をふるさとにした作家たち」漱石・逍遙・八雲・芙美子(1985年・35分)、「漱石の世界」(1977年・22分)
【費用】無料
【会場・申込み】当日午前9時30分から、新宿歴史博物館講堂前で入場整理券を配布。先着100名。
【申込み・問合せ】新宿歴史博物館(〒160-0008三栄町22) ☎(3359)2131へ。



漱石愛用の文房具 (神奈川近代文学館蔵)



あかざと黒猫図 1914 (大正3) 年夏目漱石筆 (神奈川近代文学館蔵)

新宿区民活動支援サイト「キラミラネット」オープン

URL (http://shinjuku.genki365.net)

新宿区ホームページの「協働のひろば」からモリンク

地域活動団体がイベント情報を発信したり、区民の方が地域活動に参加するための情報が得られるホームページが誕生しました。地域活動や社会貢献活動の情報をはじめ、趣味を生かしたサークル情報など、さまざまな分野の活動を掲載しています。ぜひご覧ください。

【問合せ】地域調整課コミュニティ係(本庁舎1階) ☎(5273)3872へ。
※サイトの管理運営は新宿NPOネットワーク協議会(区内の社会貢献団体・NPO等で組織)が行います。また、登録団体(情報を発信する団体)は随時募集しています。

※上記はテストページですので、実際のページと内容は異なります。

漱石の散歩道 漱石のこみち 小径～歴史をたどって

今年、明治の文豪夏目漱石生誕140年です。新宿区は、漱石が生まれ、生涯を終えたまちです。漱石ゆかりの地や作品に登場する場所を写真で紹介し、【問合せ】区政情報課広報係(本庁舎3階) ☎(5273)4064へ。

★第4回…漱石作品「三四郎」・「道草」に登場する新宿

■大久保駅(「三四郎」1908(明治41)年)…大学進学のために熊本から上京した主人公三四郎は、ある日、大学の先輩である野々宮を訪ねます。本郷区(現在の文京区)に下宿する三四郎は、甲武線(現在のJR中央線)に乗り、「大久保の停車場」で下りて、駅のすぐ近くにある野々宮の家へ向かいます。



明治40年ごろの大久保は、東京の郊外として宅地化が進む一方、野原や林など豊かな自然が残っていました。



■津の守坂(「道草」1915(大正4)年)…主人公健三の姉の家が「四ツ谷の津の守坂の横で、大通りから一町(※)ばかり奥へ引込んだ所にあった」と書かれています。本郷区(現在の文京区)の駒込に住む健三は、物語の中で何度か姉の家を訪れ、姉や姉の夫と会話を交わしています。



津の守坂の名称は、江戸時代に、現在の津の守坂通りの西側一帯が松平撰津守の屋敷であったことに由来します。

※「一町」は約109m

※最寄り駅…「津の守坂」は、都営地下鉄新宿線曙橋駅A4出口から徒歩4分